

2024年9月20日

ATEC 賛助会員および関係者の皆様

公益財団法人
航空輸送技術研究センター(ATEC)
専務理事 事務局長 遠藤 武

2024年度 ATEC 事業報告会のご案内

残暑なお厳しい折柄ですが、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より ATEC の活動にご厚情を賜り深く感謝致します。

さて、この度 ATEC では 2024 年度 事業報告会を開催致しますのでご案内申し上げます。
本報告会は、以下を目的に ATEC における 2023 年度事業および継続事業の一部ではありますが、ATEC の各部員がプレゼンテーションを行います。

- ✓ 事業の成果を賛助会員の皆様に広く共有することで、各社における事業運営の一助としていただきたい
- ✓ 各事業のワーキングメンバーの皆様には多大な貢献をいただいております、その活躍のフィードバックを行う
- ✓ 事業内容および活動へのご理解をいただくとともに、次年度に取り組む新たな事業の提案に繋げる

本報告会は ZOOM による開催であり、賛助会員の皆様であれば事前登録等せずにご参加いただけます。また興味のあるテーマのみの参加も可能です。是非、次葉のプログラムをご確認いただき、お気軽にご参加ください。

記

1. 日 時 2024年10月10日(木) 9:50~17:10
2. 開催方法 ZOOM による開催
<https://us06web.zoom.us/j/82090237480?pwd=LAbN6jNlmu86mG73bbaLl9lWhwzEP.1>
ミーティング ID: 820 9023 7480
パスコード: 581975
3. 参加対象者 ATEC 賛助会員、および関係者の皆様による自由参加
4. プログラム 次ページ参照
5. 報告資料の掲載について 報告会終了後、ATEC HP(<https://atec.or.jp/>)にて資料を掲載致します。閲覧にはパスワードが必要となりますので、ご希望者は、佐藤(y.sato@atec.or.jp)までお問い合わせください。

以上

2024年度 ATEC 事業報告会 プログラム

日 時： 2024年10月10日（木） 9：50～17：10

開催方法：ZOOM による開催

URL:

<https://us06web.zoom.us/j/82090237480?pwd=LAbnN6jNlmu86mG73bbaLl9lWhwzEP.1>

ミーティング ID: 820 9023 7480

パスコード: 581975

9：50 開催のご案内 司会 技術部長 佐藤 泰弘
9：55 開催挨拶 専務理事 遠藤 武

時間	報告テーマ	報告者
整備パート		
10:00～10:35	検査・確認における「現地現物」または「リモート」で実施する行為の整理に関する調査・研究	小寺 佑季
10:40～11:15	認定事業場の確認主任者選任における整備士資格制度に関する調査・研究	高橋 雄一
11:20～11:55	航空機整備における新技術の活用に関する調査・研究	堀口 睦史
安全パート		
13:10～13:45	VOICES 運営状況と 2023 年度の実績および課題について	船曳 孝三
13:50～14:25	自発報告を含む安全情報の有効な利用に関する調査・研究	秦 正幸
14:30～14:50	諸外国における空港制限区域内の運用に係る基準等に関する調査・研究	小寺 佑季
14:55～15:25	パイロット・サポートプログラム（PSP）に係る課題等の共有連絡会	高橋 雄一
運航パート		
15:30～15:45	運航乗務員の教育制度に関する調査・研究（指定養成施設・教官編）	林 宏美
15:50～16:05	客室乗務員の訓練及び審査のための CBTA プログラムに関する調査・研究	林 宏美
16:10～16:45	海外の FSTD に対する本邦認定手続きの簡素化・最適化のための調査・研究	堀口 睦史
16:50～17:10	"Liquid Water Equivalent System(LWES)活用によるホールド・オーバー・タイム設定の効率化に関する調査・研究	船曳 孝三

17:10 終了

注) プログラムは変更になる場合があります。

報告概要

整備パート

■ 検査・確認における「現地現物」または「リモート」で実施する行為の整理に関する調査・研究

整備士人材の有効活用の観点から、新技術を用いた高品質、効率的な整備を模索することが必要となっている。このため、遠隔地から実施する形態の業務を拡大、多様化することを念頭に置き、現在の検査・確認行為のうち、現地現物を確認する行為とリモートで確認できる行為について整理した。

■ 認定事業場の確認主任者選任における整備士資格制度に関する調査・研究

効率的な有資格整備士の確保の観点から、「一等航空運航整備士の業務範囲の拡張」と「一等航空整備士の効率的な養成」に焦点を当て事業を行った。

「一等航空運航整備士」については、現行の一等航空運航整備士のレベルで確認可能な小修理作業の選定を、「一等航空整備士」については、発動機試運転の審査内容の見直しの視点で検討を進めた。

■ 航空機整備における新技術の活用に関する調査・研究

画像による検査と目視検査との同等性や、整備作業の現業が抱える課題、他業界も含めて導入されている新技術などを調査している。塗膜剥離に使用するレーザー技術の航空機整備への転用可否や、ドローン技術の諸外国での活用動向についても調査・研究を行ってきた。昨今では、海外で行われているフォーラムや展示会に参加し、最新の技術や設備・工具の情報収集も行っている。

安全パート

■ VOICES 運営状況と 2023 年度の実績および課題について

ATEC では、国の航空安全プログラム（SSP）の下での航空安全情報自発報告制度（VOICES）の運営を 2014 年度より受託している。VOICES の運営状況および 2023 年度の実績と課題について報告する。

■ 自発報告を含む安全情報の有効な利用に関する調査・研究

過去の WG での取り組み内容や提言等を本邦内で具現化していくため、昨年度から継続検討してきた義務報告の共有に関する課題と有益な情報の共有（共有拡大）、ハザード収集や分析の在り方、最悪の事象に係る検討、安全情報の視覚化を可能とする今後の ASICSS の高度化等について報告する。

■ 諸外国における空港制限区域内の運用に係る基準等に関する調査・研究

空港の地上支援業務の担い手不足への対策として省人化等がある中で、空港制限区域内における自動運転車両の導入が進められている。2025 年にレベル 4 以上の自動運転車両の導入を視野に、制限区域内での使用に関するルール等の基準を制定する必要がある。ATEC では 2021 年度より事業化しておりその進捗を報告する。

■ パイロット・サポートプログラム（PSP）に係る課題等の共有連絡会

諸外国でのパイロット・サポートプログラムの取り組み状況などの調査を通じて、我が国におけるPPSPの制度化やHIMSの導入に向けた課題を抽出し、その対応を検討することを主たる目的に本事業を行ってきた。2023年度より共有連絡会として活動しており、これまでの成果と合わせ報告する。

運航パート

■ 運航乗務員の教育制度に関する調査・研究（指定養成施設・教官編）

国際標準や欧米等の諸外国における操縦教育に関する制度について調査の上、我が国制度と比較し、制度のあり方を検討している。例えば、エアラインでは国内養成機関において慢性的な教官不足が問題となっている中、航空身体検査が失効している操縦士や、SIM（Simulator）のみを使用する操縦実技教官において型式を保有している機種以外への拡張が困難な状況であることなど、人員の有効活用面からも課題となっている。その取り組みを報告する。

■ 客室乗務員の訓練及び審査のためのCBTAプログラムに関する調査・研究

2020年、ICAOはDoc10002（Cabin Crew Safe Training Manual）第2版を発行し、客室乗務員の更なるパフォーマンスの向上および客室乗務員のコンピテンシーに関する国際的基準の確立を目的として、客室乗務員のCBTAに関するガイドラインを策定した。本ガイドラインをベースとした客室乗務員の訓練および審査のためのCBTAプログラムの導入に関して調査・研究し、本邦におけるその導入にむけた対応を報告する。

■ 海外のFSTDに対する本邦認定手続きの簡素化・最適化のための調査・研究

現在、本邦にて海外のFSTDに対して認定を取得する際、模擬飛行装置等認定要領・細則に基づき実施しているが、この認定取得に多大なワークロードが発生している。昨今、品質管理規程(QMS)が導入されたことにより、本邦の認定取得要領、品質管理手法が、FAAにおける認定制度とほぼ同等レベルとなったことから、NAA(特にFAA)が認定している海外のFSTDに対する本邦認定手続きの簡素化について検討を行った。

■ "Liquid Water Equivalent System(LWES)活用によるホールド・オーバー・タイム設定の効率化に関する調査・研究

ホールド・オーバー・タイムの設定は、降雪強度によって決まり、現行のFAA/TC Holdover Time Guidelineでは、視程をもとにSnowfall Intensity Tableを使って降雪強度を判断している。一方FAA Advisory Circular 120-112ACでは、Liquid Water Equivalent System (LWES)を用いたホールド・オーバー・タイムの設定も認められている。LWESは、視程障害による影響がなくなるため正確な降雪強度が判断でき、またホールド・オーバー・タイム設定手順の効率化も期待できることから、LWESを本邦で活用するために必要となる基準等について調査・研究をしている。